

「学術型」課題研究 発表ルーブリック

【発表チェックリスト】

- ①スライドは「1スライド1メッセージ」を意識し、シンプルに作られている。
- ②原稿を読まずにプレゼンができています。
- ③スライドではなく、発表者が主役のプレゼンができています。

↓チェック

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

プレゼン内容	項目	評価基準			
		1：★ 努力が必要	2：★★ 目標に一部到達	3：★★★ 目標に到達	4：★★★★ 目標以上に到達
1 オープニング	① OP	オープニングが意識されていない。	オープニングは意識されているが、テーマにあまり興味を持ってない。	テーマについて興味を持てるオープニングができています。	多くの人の興味を引きつけるオープニングができています。
2 目的	② 目的	研究の目的が説明されていない。	研究の目的について説明されているものの、先行研究との違いがわからない。	少なくとも2つの先行研究(他の人が以前に行った研究)を挙げ、本研究との違いを明確にした上で、研究の目的(明らかにしたい問いや仮説)が説明されている。	十分な量の先行研究を挙げ、本研究との違いを明確にした上で、研究の目的が説明されている。
3 方法	③ 対象条件	調査対象や条件が説明されていない。	調査対象や条件が説明されているものの、曖昧である。	調査対象や条件(調べる変数・変化させる変数・統一する変数)が説明されている。	3に加えて、目的に対する調査対象や条件の設定が適切である。
	④ 数値化	どのようなデータを集めるのかが説明されていない。	「数値化」されたデータが収集できる方法が用いられておらず、客観性が低い。	客観的な根拠になり得る「数値化」されたデータが収集できる方法が用いられている。	3に加えて、人の主観や操作による影響が排除されたデータが収集できる方法であり、信頼性が高い。
	⑤ 手順説明	手順が説明されていない。	手順が説明されているが、写真や図がなく、どのような研究をしたかイメージできない。	写真や図を用いて手順が説明されており、どのような研究をしたかイメージできる。	3に加えて、聴衆が無理なく理解できるように提示の仕方が工夫されている。
4 結果	⑥ データ収集	データが提示されていない。	とりあえずデータが提示されているが、データ不足で明らかにしたい問いや仮説の答えを導くのは難しい。	明らかにしたい問いや仮説の答えを導けそうなデータが提示されている。	様々な角度から多くのデータを収集しており、問いや仮説の答えを十分に導けるデータが提示されている。
	⑦ データ処理	生データのまま提示されている(または、データが提示されていない)。	データ処理が行われ、グラフ等でとりあえず表現されている。	データ処理が行われ、グラフ等で適切に表現されている(軸の単位や曲線の引き方などの作法が守られている)。	3に加えて、統計処理(エラーバーをつける、回帰分析を行う、統計的検定を行う等)を行い、客観性を高めている。
5 考察	⑧ 考察	「なぜそのような結果が得られたか」が説明されていない。	「なぜそのような結果が得られたか」が説明されているが、自分たちの考えのみで考察しており、独りよがりである。	「なぜそのような結果が得られたか」が説明されており、既知の法則や別の先行研究などを用いて客観的に論じている。	3に加えて、論理的に矛盾がなく、納得できる。
6 結論	⑨ 結論	結論が説明されていない。	結論が説明されているものの、問いについての答えではない。	結論が説明されており、問いについての答えが根拠に基づいて示されている。	3に加えて、さらなる問いや今後の展望についても説明されている。

プレゼンはここまで 以下、全体の観点

7 【全体観点】 学際的 見方・考え方の活用	⑩ 学際	学際的な見方で柔軟な課題解決手法を活用した場面が、説明からはよく分からなかった。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な見方で柔軟な課題解決手法を特に活用しなかった(1つの手法のみで結論を導こうとしていた)。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な視点で柔軟な課題解決手法を用いて(少なくとも2つの手法を組み合わせ)、探究を行っていた。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な見方で柔軟な課題解決手法を存分に活用し(3つ以上の手法を組み合わせ)、それらを効果的に結びつけながら探究を深めていた。
---------------------------------	---------	--	--	--	---

【分野にとらわれず、柔軟に課題解決手法を選択】

人文・社会科学的手法：文献・資料調査、フィールドワーク(実地調査)、心理学的指標、アンケート、インタビュー、アート、デザイン 等
 自然科学的手法：観察・実験・センシング(センサー等を活用した物理量測定)、開発、定式化(現象を数式で表す)、理論計算 等
 データサイエンス的手法：統計データ解析、シミュレーション、AI・機械学習、テキストマイニング、プログラミング、デジタルものづくり 等